

平成29年度 総括評価表

徳島県立板野高等学校

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方針 | |
|------------|---|---|---|--|---|--|
| | | 評価指標と活動計画 | 評価 | | | |
| 基本的生活習慣の確立 | (全校レベル) 1) 生徒指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努める。 | 評価指標 1)-1 頭髪服装指導を毎月実施する。 | 評価指標の達成度 1)-1 服装頭髪指導の毎月実施率100% | 総合評価 (評定) B (所見) (1)評価指数関連については、概ね達成できたようである。職員と生徒の心の交流を目指すなか、校門で挨拶を交わしたり、声を掛けることを全職員で取り組んだ結果、昨年度より挨拶や服装・頭髪等の基本的な生活習慣は少しずつ改善されてきた。 (2)いじめや非行等の問題解決においては、担任だけではなく、学年団、養護教諭、部活動顧問など全職員が一丸団結し、「チーム板野」として組織的に解決に当たることができた。さらに、スクールカウンセラーや中学校、地域、警察・教育委員会等の外部機関の協力が得られたことにより、問題が深刻化する前に解決できたこともあった。 (3)交通ルールやマナー違反については、自転車も車面であるという意識が乏しく、交通事故(被害者)に遭遇する場面もあり、目に見える改善は見られなかった。今後も様々な場面で注意を促していく必要がある。 (4)遅刻回数は全体的に減少傾向にあるが、生活習慣や交友関係の乱れ等の様々な原因で遅刻を繰り返してしまう生徒もあり、家庭と連携を取りながら一人一人に応じた指導を続けていく必要がある。 | ●歩行者や自転車とも重大な事故につながらないよう安全指導を行ってほしい。特に、正門前坂道でスピードを出しすぎているところがあり、注意を促してほしい。 ●イヤホンで音楽を聴きながら、またスマホを触りながら自転車を乗っている生徒が見受けられる。これらをしてないように指導してもらいたい。 ●「自転車総合保険」のことを知らない生徒が多い。もっと様々な場面でPRに努めて周知徹底を図ってほしい。 | ○頭髪指導については、生徒・保護者・教員が情報を共有し、連絡をより綿密にする。本年度よりマイナーチェンジした制服は、デザインの手直しにより、清潔感のある着こなしができるようになった。 ○より良い学習となるように、内容の精選と工夫を今後も行う。 ○あらゆる場面を利用し、交通安全・マナーの再認識を図る。朝の登校指導を継続して行う。 |
| | 2) 自他の人権を尊重する態度を育成する。 | 2)-1 人権学習HRを各学年7回実施する。 | 2)-1 人権学習HR7回、全学年実施。3年生「人権意識調査」項目の検討と修正を行い、次年度につなげることができた。 | | | |
| | 3) 交通安全を指導し、命の大切さを教育する。 | 2)-3 交通ルールやマナーを守る。 | 2)-3 重大事故はなかったが、イヤホン使用等の自転車運転のルール・マナー違反によるヒヤリ・ハット場面が多かった。 | | | |
| | (下位組織レベル) | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | ① 授業、部活動等学校生活すべての場面で生活指導 | ①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で毎月1回頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。 | ①-1 全校一斉での頭髪服装指導後も個別に再検査を行い、整えられるまで根気強く指導した。 | | | |
| | | ①-2 授業の受け方(態度や課題提出)等の入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。 | ①-2 入学時のオリエンテーション、学年集会、HR活動において、高校における基本的な学習・生活態度について説明を行った。また、各教科授業においても本格的な指導に入る前に、説明を繰り返した。宿題等の提出物についても期日を守るよう、年間を通して指導した。 | | | |
| | | ①-3 「能率手帳」を学年集会等に持参させ、メモをとらせる習慣を身につけさせる。生活記録としても手帳を使用し家庭学習の定着を図る。 | ①-3 1年生では毎日の生活記録として「手帳」を使用し、生活リズムの確立や家庭での学習時間の確保についての意識付けを行った。 | | | |
| | | ①-4 すべての授業で礼儀や身だしなみを指導し、特に体育科では集団行動の指導を徹底する。 | ①-4 集団行動の徹底を図ることによって、その後の授業が、規律正しく、積極的に実施することができた。授業の前後の挨拶や服装チェックの効果も現れ、生徒の意識も高まってきた。 | | | |
| | | ①-5 毎月1回清掃時間を延長した「清掃の日」を設け、清掃美化意識を高める。定期的にゴミの分別や清掃状況のチェックを行い、清掃美化の徹底と校内環境の整備を行う。 | ①-5 昨年に引き続き、教室・廊下等の学習環境は良くなってきている。美化委員による「清掃チェック」や保健委員による「トイレチェック」により、ゴミの分別を含めた清掃美化意識がさらに高まった。 | | | |
| | | ② 「遅刻カード(授業遅刻も含む)」への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。 | ② カード記入や家庭連絡は徹底できた。毎年面談数は減少傾向にあるが、遅刻回数の多さは特定生徒に偏りが見られる。 | | | |
| | ③ 登校時、校門前での交通指導と挨拶運動を行う。 | ③ 生徒会役員・野球部員とともに毎朝交通指導・挨拶運動を行い、毎週金曜日駐輪・自転車マナーについても指導した。 | | | | |
| | ④-1 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や体育・家庭科の教員、教育相談員等で連絡を取りながら教える。 | ④ 毎日出欠黒板から出欠状況把握し、養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き、担任や学年団で対応した。また、気にかかる生徒はスクールカウンセラーとの面談を勧め、問題行動等の未然防止に努めた。板高祭においては保健所出前講座を実施し、食生活をはじめ健康に関する内容を取り上げたり、「家庭基礎」の授業において、食の意義について常時指導した。 | | | | |
| | ④-2 「自己有用感」を育成する。各種大会への作品応募により達成感を身につけさせる。ボランティア活動への参加により、思いやりの気持ちを育てる。 | ④-2 年2回の通学路清掃に加え、生徒会役員を中心にとくしまマラソンや板野支援学校の学校祭でボランティア活動を行った。また、あさんウォーキングフェスタにも参加した。保育園、老人ホーム訪問、お接待により地域とのかかわりや思いやり、コミュニケーション能力の向上が図られた。 | | | | |
| | ④-3 「家庭基礎」の授業を通じて食と健康の関連について指導する。 | ④-3 調理実習を通じて、食への関心を高め健康と食の関連について考えた。また、食育HR活動を全HRで実施、エンカルクラブ活動を通じて食のあり方も考えた。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------|---|--|---|--|--|
| <p>確かな学力の育成</p> | (全校レベル) | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | <p>●すべての教科で満足度が80%以上、90%を超える教科もあったことは高い評価である。今後とも「アクティブラーニング」の導入や学び直し教材「smile」の更なる活用をお願いしたい。</p> <p>●宿題はするが、予習・復習を全くない生徒が多い。家庭学習を定着させるための方策を考えていく必要がある。</p> <p>●板野高校が今後進学を目指すのか、就職を中心にするのか、学校の方向性が曖昧である。大学進学・就職・専門学校進学のバランスを取りながらも、板野高校の特色を出して取り組んでいく必要がある。</p> <p>●県内初めての「朝の読書」を引き続き実施してもらいたい。さらに、様々な企画でもって図書室の更なる利用促進に努めていただきたい。</p> |
| | 1)基礎学力の向上を図る。 | 1)授業内容の研究(教科会・公開授業)各学期1回 | 1)「授業評価アンケート」結果に基づく検討や、教材の検討を中心に教科会を実施した。情報科では、授業内容の検討会を各学期1度実施。国語科では、2年次研修各1名による研究授業を行い、授業内容の研究・検討を実施することができた。英語科では、1名が外部の英語教員中核研修を受講後、校内での研究授業を行い、授業内容の見直しや検討を図ることができた。 | (評定) B | |
| | 2)わかる授業を展開する。 | 2)「授業評価アンケート」で生徒の満足度80%以上 | 2)すべての教科で生徒の満足度80%以上、90%を超える教科(国・地歴公民,体,芸術)もあった。 | (所見) | |
| | (下位組織レベル) | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (1)評価指標関連については、概ね達成できたようである。義務教育での習熟度に差があるため、1学年の4月の授業で使用している「スマイル」は、生徒の学び直しと実態把握に効果があると考える。(2)教材の精選や実験・実習を多く取り入れた授業を展開した結果、生徒のアンケートでは授業に対する満足度は高かった。(3)しかしながら、自分でやるべきことを見つけることのできない生徒が多く、家庭学習では週末課題に取り組み程度に止まり、圧倒的に家庭学習時間が少ない。授業態度は良好だが、自分自身が学習意欲を持ち、より高い学力を求めることが今後の課題である。 | |
| | ①学び直し教材「smile」の活用 | ①1学年の「国数英」で学び直し教材の活用を徹底する。 | ①「国数英」の3教科とも4月中学び直し教材「スマイル」を用いて中学の復習を行った。 | | |
| | ②授業評価結果の活用 | ②生徒を対象に「授業評価アンケート」を年2回実施する。教科会を開き、参加意欲の乏しい原因を探り改善に努める。 | ②6月と11月にアンケートを実施し、各教科において検討会を開き、授業の充実、参加意欲の高揚に向けた具体的な方策をいだし共通理解を図った。しかし教科担任が一人の教科では検討が難しい面もある。 | | |
| ③教材の精選や授業の工夫、校外の講座等の参加、各種資格取得 | ③実験や実習を多く取り入れ、生徒が興味関心を持つ授業を展開するとともに、「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学習意欲を育てる。 | ③情報科では実習を毎学期実施した。また、年4回情報検定を実施し、のべ60名程度受験し半数程度が合格した。「授業評価アンケート」でも興味を持ったと評価した生徒が多かった。英語科では昨年同様、コミュニケーション活動やワークシートを使った授業を多く実施した。家庭科では、調理・被服の実習のみでなく少人数でのTTを活用し、授業での「アクティブラーニング」に取り組んだ。 | | | |
| ④学習時間の確保 | ④「チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)」や週末課題の実施等で学習時間を確保する。 | ④考査発表後、6限で終了する日は特別な行事がない限り「チャレンジタイム」を設定し、学習時間の確保に充てた。また、課題等未提出者のチェックを確実にし、HR担任との連携を密にして提出率をアップさせた。 | | | |
| ⑤図書の見出しの推進 | ⑤入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」で本の紹介をする。 | ⑤入学後、最初の国語授業で全員にオリエンテーションを実施。約2ヶ月間の読書マラソンや図書委員のおすすめ図書紹介(毎月の図書館便り)で読書を推進した。読み聞かせ講習会、保育園での読み聞かせを行うことで、絵本への関心も高めることができた。 | | | |
| ⑥不登校傾向の生徒の学びの場の保障 | ⑥本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。学年会は毎月、教育相談課会議は学期ごとにとり共通理解を図る。 | ⑥学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り、家庭訪問や保護者への面談等で希望を聞き対応した。 | | | |
| <p>進路指導の充実</p> | (全校レベル) | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | <p>●進路別の補習授業について、実施状況からも効果は出ているようである。</p> <p>●大学進学者をもう少し増やしていくとともに、AO入試や早期推薦入学も必要だが、最後まで粘れる生徒も作ってほしい。</p> |
| | 1)多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。 | 1)各学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施 | 1)校内の進路ガイダンスは予定通り実施できた。校外でのガイダンスは、業者主催の進路相談会より、オープンキャンパス参加者が圧倒的に増加した。ただし、校種的には専門学校が多数を占めている。 | (評定) B | |
| | 2)教育課程を充実する。 | 2)「学校評価アンケート」で、教育課程の充実度が70%以上、生徒対象の科目選択説明会の実施、学年団による科目検討会の実施 | 2)「ほぼ充実している」以上の割合は、教員94.9%、生徒77.8%、保護者80.1%高い評価を得た。科目説明会、学年団による科目検討会も予定通り行うことができ、生徒の充実した科目選択に向けたチェック体制も確立した。 | (所見) | |
| | (下位組織レベル) | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (1)評価指標についてはほぼ達成している。就職希望生は学年の1/3以上と多いが、1学期の早い段階から就職開拓や筆記試験対策・面接指導に取り組んだことにより、学校推薦の生徒は全員希望通り就職先が決定した。(2)進学においても希望生はほぼ全員希望通りの進学先に合格した。しかしながら、AO入試や推薦入試等での合格により、その後の学習活動がストップしてしまっただけも見受けられた。(3)1年次のインターンシップでは、生徒78%、保護者86%と、昨年度よりアップしており、自分の進路を考える契機になったものと考えている。 | |
| | ①進路相談の機会の増加 | ①放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。 | ① 全学年、各学期当初に設けた面談時間で生徒と面談を行った。3年生では放課後や休憩時間を利用し、個別面談を適宜実施した。部活動顧問との連携で進路を探るケースもあった。 | | |
| | ②進路別の補習授業 | ②進路別の補習参加人数を5割以上目指す。 | ② 補習参加人数は平均して5割を上回った。3年生の補習は、進路実現に大いに役立った。 | | |
| ③生徒、保護者の希望進路の実現 | ③担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報をHPIにより広報を行う。PTA研修会で県内外の大学・専門学校や企業の訪問を行う。 | ③ 日常的に電話連絡や面談はできている。また、PTA家庭教育研修会を2回実施し、県内外の大学や県内企業を訪問した。また、学校祭で、人気講師を招いての進路講演会を行った。子どもと保護者が共に進路について考え、行動して目標を設定し、達成に向けて取り組むことができた。 | | | |
| ④進路関係図書の貸出促進 | ④進路関係図書を特集展開する。関連図書の貸出数をのべ15冊以上にする。 | ④ 進路関係図書の利用生徒数は多くないが、貸し出し数は22冊(1月末)で目標以上となった。図書を指定したため特定の本の貸し出し数が伸びた形になった。 | | | |